

令和元年度 子育てコミュニティトーク(4)小・中学校

日時 10月2日(水) 午前10時から正午まで

場所 市民交流プラザミュージックルーム2

テーマ1「子どもを守るための家庭での取組について」

●学校教育部長

大きなテーマですので、スマートフォン(以下、スマホ)やインターネット上の危険から子どもをどう守るかという点に絞った内容でお伺いしていきたいと思います。今生まれてくるお子さんは、生まれた時から、パソコンやスマホがある暮らしをしています。便利な反面、無料通話アプリの中で悪口を言われてしまうとか、SNSに写真を投稿したことから、名前や住所などが特定されてしまうといった問題が生じています。子どもたちがインターネットを利用しているうちに有害情報に触れてしまい、ネット上の知らない人とつながってしまうということもあります。また、気軽に無料でゲームを始めたところ、ゲーム依存になってしまうことや目や脳への悪影響が心配されています。

また、昨年の中務省の調査において、スマホの所有率は、小学生で55%、中学生で66%、高校生では97%が所有しているとのことでした。

今日、皆さんと意見交換し考えていきたいのは、各家庭のお子さんは、どれくらいインターネットやスマホに触れているのか、何か困っていることやトラブルはないか、また、それをどのように守っていくかのアイデアや家庭でどのようにしているのか伺い、行政や教育委員会として子どもたちを守るための取組の参考にさせていただきたいと思います。

●昨年あたりから、子どもが親のスマホを使って動画サイトを見たり、ネットのゲームをするようになり、どうしたものかと困っていましたが、学校を通じて民間企業のスマホを使う際の注意点を考える「スマホ教室」がありました。その中では、子どもにスマホを持たせる場合には、親の所有物だということを子どもに理解してもらい、使用については許可制とすること、子どもと一緒に考えて約束をつくるのが大切だということ学びました。

●キッズ携帯を持たせたいと思っていますが、小学生の低学年ではまだスマホを持たせるには早い気がして検討しているところです。子どもが親のスマホを使って、ネット通販で勝手に物を買ったり、データをダウンロードしたりしたことがあって驚いたことがあります。

●学校教育部長

子どもがスマホの操作などを覚えるスピードは早いです。最近では、文字を打たなくても音声認識で簡単に検索できるので便利ですが、子どもが真似をして使うこともあります。

子どもの登下校時には見守り隊がいて安心だと思いますが、習い事をするようになって時間が遅くなったり、子どもの行動範囲が広がってきたりするとGPS機能などが便利なこともあり、子どもにスマホを持たせるようになることが多いように感じています。

●子どもにはまだスマホなどを持たせていません。大人でもスマホを使っていると、まぶしく感じたり目が疲れたりするので、子どもに持たせようとはまだ考えていません。どのように使うかというよりも、目や脳への身体的な悪影響が気になります。テレビであっても見続けてしまうことがあるので、子どもが動画サイトを見たら、好きな動画を次々と見てやめられなくなってしまいうだろうと思います。まだ、低学年でなかなか自分で時間を守ったり判断したりすることができない時期なので、スマホ向けのゲームを使って、子どもと一緒に画面との距離はどうしたら良いかや使用時間について話をし、考えながらやっています。それでも、どんどん使う時間が増えて依存しないか心配です。子どもには、ゲーム以外にも楽しいことがたくさんあり、いろいろな経験をしてもらいたいと思っています。

●学校教育部長

新聞の記事で読みましたが、低年齢のときからスマホなどの画面を近い距離で見ると目や脳への悪影響もあるということが紹介されていました。

●親が以前使用していたスマホを子どもに渡して、自宅の Wi-Fi に接続して使用しています。子どもたちの間では、無料通話アプリで会話をしながら、それぞれの家でゲームをすることが流行っているようです。何人かで協力しながら進めていく内容のゲームで、名前を呼びながらやっているのに、知らない人に名前が分かってしまうのではないかと心配です。

●母親が仕事を再開した2年前から子どもにスマホを持たせています。周囲でもスマホを持つ子どもが多くなり無料通話アプリを利用していますが、やりとりする相手と内容を親が確認して利用しています。

親が電子機器の操作が苦手なので、子どもが学ぶスピードに驚いています。子どもが成長していくと利用状況がどのようなになるのかお聞きしたいです。

●20歳の上の子が夜遅くまでリビングでスマホを操作している様子を中学生の子どもが見ていて、そういう使い方をしても良いのではないかと考えています。子どもがスマホやゲームに依存してしまったり、やめられなくなってしまったことがありました。医師に相談したところ、ゲームをやっているときの脳は前頭葉の働きが抑えられ、感情のコントロールが難しくなり言葉も乱暴になってしまうということと、22時から2時までは脳を休めることが大切だということを知りました。それを聞いてからは、子ども自身が時間を意識して使用するようになりました。

●中学生になったときに子どもにスマホを持たせました。最初にスマホは親が貸しているものだと説明して持たせましたが、十分に理解できていなかったようで、無料のゲームをダウンロードした後に、コンビニでゲーム用のプリペイドカードを勝手に買って来たことがありました。また、通話付きの SIM カードを買って利用したときに、前の所有者が検索サイトに番号を登録していたため表示されてしまうということがありました。中学生になると部活動の部員同士の連絡などを無料通話アプリでやっています。子どもに最初にスマホを持たせるときに、親が貸しているものだということが子どもが理解していること、アプリの使用制限などを使って利用することなど、最初にしっかり教えることが肝心だと思います。

●交友関係を円滑にする目的や、習い事をして帰りが遅くなる小学校の高学年から中学生に上がるときに、スマホを持たせる家庭が多いと感じています。子どもがスマホを使う際のルールとしては、リビングで使用するのと、下の子がスマホを操作しないように、ロックをかけたいと上の子が言ってきているので、親が知っている暗証番号にしています。また、有害サイトにつながらないように安全フィルタをかけて利用させています。

子どもがスマホを持つきっかけは、中学生になり、塾や部活で移動範囲が広くなり、親が心配なため本人に持ってほしいと言ったところ、最初は子どもがスマホを持ちたくないと言いました。理由を聞いたら、小学校のときの「スマホ教室」で SNS での拡散や簡単に消せないことなど怖さを十分理解したようで持ちたくなかったとのことでしたが、部活の朝練の時間や集合時間の連絡が取れないのが嫌で、子ども自身がスマホを持ちたいと希望したため持たせています。今のところ安全に使えていると思っています。下の子どもは、調べものをするときにタブレットを使用しています。

●教育長

子どもにスマホを持たせる以上は、スマホの便利さや、どのようなトラブルに巻き込まれやすいかなども子どもと一緒に話し合うなど、十分理解したうえで親も責任を持って取り組んでほしいと思います。皆さんのお話を聴いて、教員の研修というのをも考えていきたいと感じました。

テーマ2「地域との関わり方について」

●教育総務部長

共働きの世帯、核家族が増え、仕事が忙しいこともあり、近所の方と話すなど地域での交流、ふれあいがとても少なくなったと感じています。

こういった背景があり、厚木市では県内で初めて「子ども育成条例」を策定し、「地域全体が子育て家庭を支える、大きな家族になろう」という理念を掲げ環境整備を進めています。地域では、青少年健全育成会、子ども会、自治会などたくさんの方が、登下校時に見守りをするなど様々な方法で子育て世帯を見守っています。地域全体で子育てをすることは、いざという時に顔の分かる関係はとても大事ですし、ぜひ地域の方々とのつながりを持っていただきたいと思っています。なかなかつながりが持ちにくい、という声も聴いています。

本日お聴きしたいこととして、1つ目は、地域全体で子どもを育てることに関して、普段皆様を感じていることをお聴きしたいと思います。2つ目は、関わりがなかなか持てない場合の理由をお聴きしたいと考えています。

地域の自治会や子ども会行事に参加しているのか、参加できない理由があれば、それを取り払い、地域に溶け込んでほしいと思っています。

●地域との関わりは、近所の方とあいさつをする程度の付き合いですが、子どもが小学生になってコミュニティスクールの取組などで学校が地域の方に支えられていることを実感しました。

●先日、地域の防災訓練に参加しました。実際に災害が発生した時は、厚木第二小学校の方が近

いので、どちらに行こうか悩んでいます。

●子ども会には、毎年子どもに入りたいか聞いて今のところ入っていませんが、子ども自らが子ども会に入りたいと言ってくる日がくると良いと思います。地域で子どもを育てることについて、近所に児童館があり外の遊具で遊んでいると、近所の方から子どもの声がうるさいと苦情があって外で元気に遊べる場所が少ないと感じています。ただ、それほど良く見ているということでもあると思います。

他の地区の話ですが、児童館と老人憩の家が近く子どもと高齢者の交流があるということを知ったことがあり、とても良いことだと思いました。

働いている親が多いこともありますが、子どもが放課後に安心して遊べる場所が少ないので、地域の方が多く関わる「放課後子ども教室」の取組はとても良いと思います。

●こども未来部長

放課後子ども教室の取組は、施設的な部分と、地域の方々の協力があって可能なもので、現在はモデル校のみの運営となっています。

●2世帯で住んでいて、親世帯が自治会活動に積極的に参加していて、子世帯はあまり地域の行事に参加していません。自分の子どもが通っていないのに、交通安全母の会や見守り隊による通学路の安全確保や、小学校での除草作業などの地域の方が地域を支えていることに感動しました。

●教育総務部長

子どもが成長して今は学校に通っていない方でも、住んでいる地域のためにボランティアをすることやPTAのOB会をつくって、学校や地域のために活動しているところもあります。

●住んでいる地区では、地域とのつながりが強く最初は慣れませんでした。声を掛けていただいたりして地域に溶け込めました。地域との関わりについて、登下校時の見守り隊が常にいてありがたいです。台風の影響で登校時間が遅くなる時がありましたが、学校と見守り隊の人ほどのように連絡をとっているのか。誰も来ない大雨の中、いつも通りの時間に道に立っていた方を見かけて、登校時間が遅くなったことを伝えたことがありました。ボランティアでやってもらっているのに、学校が時間変更の連絡をしないのは申し訳ないのではないかという気持ちになりました。

子ども会については、廃止された地区もあるようですが、住んでいる地区では、自治会の子ども部として自治会の中に組み込むことにより、役員をやらないで済むようにして子育て世代の負担を軽くして参加しやすくしています。転勤してきて周囲に知り合いもなく、地域と関わりたいけど関われない家庭もあると思うので、最初のきっかけをいろいろな形でつくってくれたら地域へ参加がしやすくなると思います。

●10年程前に厚木市に引っ越してきました。知り合いもいないですが、公園に遊びに行ったときに子ども会加入のチラシを見て、すぐに子ども会に加入しました。

小学校のときには、子どもの登下校中に地域の方がいつも見てくれている安心感や登下校中の子どもの様子を見守り隊の方が教えてくれたりします。大人になっても地域の運動会に参加すると、顔を覚えていて地域の方が声を掛けて盛り上げてくれます。子どももそれがうれしいようで、自分より小さい地域の子どもの面倒を見るようになり良い関係が築けています。子ども会の役員などの大変さよりも、子どもが成長する際のメリットを大きく感じています。

人通りの多い時間で見守りをさせていただいていますが、子どもたちは塾が終わって帰宅する時間が 22 時近くになるので、見守り隊の都合ももちろんあると思いますが、その時間帯で見守りをしてほしいと思っています。

●周囲の子どもが子ども会に入っていないこともあり、子ども会には入っていません。自治会には加入し、公民館まつりなどに子どもと積極的に参加しています。

児童館の前の神社で遊んでいると、地域との方とのトラブルがあるので、子どもがボール遊びをする場合は、河川敷の広場しかありません。人通りが少ないところなので心配しています。

●南毛利中学校の地区では、子どもの年齢に関係なく世代間交流をしている地区やイベントの際には、中学生に大きな役割を持ってもらうようにしている地区もあります。

また、大きな災害が発生した際には、声掛けを通じて安全確認ができる関係を築いていきたいと思っています。

●市長

高校生がスマホを通じて反社会的勢力とつながってしまい、警察に相談して何とか断ち切れたということがありました。また、使い過ぎると、目や脳へも影響があるというデータもあるので、便利なものですが、そういうこともあると認識しておいてもらいたいと思います。

台風の際に登校時間が遅くなったことを知らずに見守り活動をしていたことに気づいて声を掛けてくれた話がありましたが、地域と学校と家庭が全て結びつければ良いですが、難しい部分もあります。それを補う行動が地域コミュニティの本髄だと思います。

以前は、本厚木駅前を中心としたエリアの治安が悪い時期がありましたが、交番を移動したり、警察 OB の方の協力もあり、犯罪の認知件数は減っておりますが、子どもが習い事から帰る時間帯の見守りについては、警察と相談して対策を考えていきたいと思っています。

見守り活動は、地域の皆さんの協力でできています。その原点は、市民協働です。まちが良くなるかならないかは、そこに住んでいる人たちと同じ思いで、地域の課題を見つけ、協力して取り組まなければならないことです。今から 12 年前、世界基準の安心安全のまちづくりを目指したセーフコミュニティの考えを取り入れ、犯罪や交通事故を未然に防ごうと取組をしています。防犯カメラもありますが、犯罪発生を抑止効果が高いのは、人の目であり、地域の皆さんの御理解・御協力があって、見守り活動ができています。

少し前の話ですが、平成 27 年に日本経済新聞の調査の結果、厚木市は、行政と市民が協働で取り組んでいるということで、自治体経営革新度が全国で 1 位となりました。先ほど、自治会に子ども会を取り込んだ地区の話がありましたが、子どもを守るのは大人だということで地域の方が考えてくれています。社会は人とのつながりが希薄化する方向に動いていますが、つながりがある地域には温かみを感じますし、自分が子どものとき、地域とどのような関わりがあったか振り

返ってもらい、人と人がつながってコミュニティをつくっていくこと、子どもたちにつないでいくことが求められていると思います。

いただいた御意見は、今後の市政運営の参考とさせていただきます。ありがとうございました。